

「ウィズコロナ」「ポストコロナ」で注目される タイのMICEプログラム

MICEデスティネーションとして世界の注目を集めるタイ。充実したインフラ、タイらしさあふれるユニークで多彩な体験、そして地理的な優位性に加え、これからの「ウィズコロナ」「ポストコロナ」だからこそ注目したいポイントを紹介する。新しい時代へ向け、新しいスタイルのMICEがタイでは実現可能だ。



タイが人気のMICEデスティネーションとなった理由

1 さまざまなニーズに対応できる多彩な施設

1000人単位から1万人を超える収容能力を備えた大型コンベンション施設をはじめ、MICEに対応する新しい施設が続々オープン。インセンティブなど小グループ向けにVIPサービスを提供する宿泊施設も数多い。

また、歴史的建造物や自然景観を活かしたユニークな場所を会場に活用できるのも大きな魅力。TCEBに相談することで実現するベニューもある。予算やテーマ、グループの規模や目的に応じて使い分けられるように受け入れ態勢が整っていることが、大きな強みとなっている。

2 タイらしい体験

観光地としても人気のタイには、タイらしいユニークで多彩な体験が揃う。さらに近年注目を集めるCSR（企業の社会的責任）やサステナビリティの観点においても、プログラムが充実。楽しいアクティビティを通じて、社会や自然環境に貢献できることから人気だ。

社員間のコミュニケーションに課題のある企業に対しては、チームビルディングのプログラムを組み込むことが可能。「綱引き」や「リレー」など、ポピュラーなプログラムだけでなく、運動が苦手な人でも楽しく参加できるプログラムも豊富。CSRとチームビルディングを組み合わせるようなアレンジもできる。

3 地理的な優位性と「MICEシティ」

地理的な優位性にも注目したい。ASEANの中心地であるタイなら、周辺各国への移動もスムーズ。

日本からは東京や大阪だけでなく、各地からバンコクへフライトが飛び、供給座席数も豊富なので、大型のグループにも対応できる。

またTCEBでは、MICEに対応した都市を「MICEシティ」として位置付けており、バンコクに限らず、プーケットやパタヤ、チェンマイやコーンケンといったタイ各地の都市も「MICEシティ」として、充実のインフラを誇っている。

「ウィズコロナ」「ポストコロナ」だからこそ注目したいポイント

ユニークで多彩なMICEプログラムが揃うタイ。「ウィズコロナ」「ポストコロナ」の時代においても、その特徴や優位性には変わりなく、新しい時代にふさわしいMICEを提案できる。

例えば、「三密」を避けたプログラムや「ワーケーション」といった提案。またそれと絡めた展開として、いま日本でも人気の

グランピング、またCSRやサステナビリティの観点からも重要なSDGsのテーマを取り入れたプログラムの実現が可能。混雑を避けるという意味でも、バンコクから先のデスティネーションを選択できるのも大きなポイントだ。

「新しい時代」に対応した タイのMICEプロダクト

タイだからこそ実現できるユニークで多彩なMICE体験。

「ウィズコロナ」「ポストコロナ」の観点からも

おすすめしたいアクティビティや最新のMICE向け施設を紹介したい。



CSRに関するプログラム

サンゴの養殖やマングローブの植樹、ゾウとのふれあい



タイではCSR(企業の社会的責任)に関するプログラムが豊富にそろそろ。例えば、地球温暖化による海水温の上昇で、サンゴへの被害が世界的な問題となっているなか、パタヤの海軍施設ではサンゴの養殖体験が可能。海に近いエリアでのマングローブの植樹体験や、ゾウの保護と自然環境を学ぶ「エレファント・サンクチュアリ」など、サステナビリティーをテーマとしたアクティビティが充実している。



豊富なユニークベニュー(施設)

ルフトップのオープンスペースがパーティー会場に



タイのMICEの大きな魅力の1つが、ユニークなベニューが豊富であること。リバーサイドやビーチサイド、ジャングルでのバンケット、高層階での会議、美術館・博物館、劇場などと選択肢が多いだけでなく、要望に応じてさまざまなカスタマイズができる。なかでも人気ののが、観光のひとつとしても定番となったルフトップバー。ホテルや高層ビルの屋上を貸し切り、眼下に広がる夜景を眺めながら開放的な空間でパーティーを実施できる。



タイらしさを全面に出したプログラム

「ムエタイ」エクササイズや托鉢で異文化体験



日本ではなかなか体験できないタイの文化に触れるプログラムも。その一例が、タイ式キックボクシング「ムエタイ」を取り入れたエクササイズ。パンチやキックなどの基本的な動きを取り入れたエクササイズで、試合前の儀式として踊る「ワイクルー・ラムムアイ」の動きと、その意味を知ることができる。また仏教国のタイらしい体験としては、托鉢僧にお供え物を渡す体験がおすすめ。同じ仏教国でも異なる様式を知る「異文化体験」のひとつとして、プログラムに取り入れてみたい。



タイだからできる「ワーケーション」

充実したコワーキングスペース



仕事(ワーク)と休暇(バケーション)を組み合わせた造語「ワーケーション」。長期休暇を兼ねてリモートワークを行う勤務スタイルで、旅の新しいスタイルとしても注目されている。もともとノマドワーカーが多いタイでは、Wi-Fiなどのインフラが整うほか、コワーキングスペースが充実。日本から各グループでタイへ出発し、それぞれの滞在先で、休暇を楽しみながら仕事したり、また現地でのレセプションやチームビルディングプログラムに参加したり、といった新しいMICEのスタイルが実現可能だ。



国を挙げて環境問題に取り組むタイ

「ピントー」や
エコバックに注目

観光立国として、責任ある観光を遂行していくにあたり、使い捨てプラスチックの削減を積極的に推進しているタイ。自然環境に配慮する象徴として、タイのお弁当箱「ピントー」が注目されている。またエコバッグやエコストローの利用をはじめ、サステナビリティーや環境問題を意識した滞在が求められている。



バンコクの生活を肌で感じる滞在

チャオプラヤー川周辺の
リバーサイドホテル

バンコクの街の中を悠々と流れるチャオプラヤー川。川沿いには高級ホテルをはじめ、レストランや複合ショッピング施設などが建ち並ぶ。いまでもそBTS（スカイトレイン）などの交通インフラが整うが、かつてはこの川が物や人を運ぶ交通網としてバンコクの生活を支えてきた。現在でも市民の足として、船が利用されているほか、バンコク定番観光地、三大寺院はいずれもチャオプラヤー川沿いにあり、船でのアクセスが便利。現代と伝統が融合するタイならではの雰囲気を感じ取るリバーサイドの滞在はぜひおすすめだ。



注目の高原リゾート「カオヤイ」

大自然に囲まれながら密を避けて滞在



バンコクから車で2時間ほどのマウンテンリゾート「カオヤイ」。バンコクの富裕層や外国企業の駐在員が週末にゴルフを楽しむ高級リゾート地で、避暑地としても人気だ。ヴィラタイプのホテルも多く、ゆったりとした滞在ができるほか、いま話題のグランピング施設もおすすめ。豊かな自然を感じるハイキングをはじめ、タイでこれまでとはひと味違った滞在が楽しめる。また豊かな土壌を活かしたブドウ栽培が盛んで、ワイナリー巡りも注目だ。



充実した大型コンベンション施設

グローバルMICEデスティネーションの証



毎年多くのMICE向け施設がオープンするタイ。現在改装中のクイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センターをはじめ、インパクト国際展示場（IMPACT）、バンコク・インターナショナルトレード&エキシビションセンター（BITEC）、true icon HALL、SAM YAN MITR TOWN HALLなど、これまで世界中から1000人規模の団体が訪れてきた実績があり、1万人を超える団体でも対応できる大型施設が数多い。これはまさに国際的にMICEを受け入れる土壌が充実している証と言える。



SDGsの達成に貢献できるプログラム

MICEだけでなく教育旅行にも最適



今、日本でも関心の高いSDGs（持続可能な開発目標）。2015年9月の国連サミットで採択、「地球上の誰一人として取り残さない」社会実現のため、国連に加盟する193カ国が2030年までの達成を目標とする。17項目にわたる目標には、貧困や飢餓、健康や教育、エネルギー、経済、気候、自然、平和といった多岐にわたるテーマが掲げられている。タイではこうしたSDGsを絡めたアレンジが可能で、地元の小学校を訪問して学校内に農園を作り、そこで栽培された野菜を学校給食に使用するという例も。現地のDMCと相談することで実現できるプランも多い。

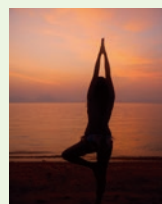


豊富なウェルネスプログラム

滞在先、ホテルなど、どこでもリラクゼーション



タイでは、古来よりマッサージによる医療が発達。アユタヤ王朝以降、宮廷の医師によって作られた「タイ古式マッサージ」をはじめ、タイ式健康法「ルーシーダットン」など、その歴史は長い。近年では、ホテルでの極上スパや、街中で気軽に訪れることができるスパ施設など、その選択肢も広い。ヨガなどを取り入れ、心身ともにリラクゼーションができる本格的なウェルネスプログラムを取り入れたリゾートなど、現地移動によるストレスを感じることなく、滞在先で質の高いリラクゼーションを受けられるのもタイならではの大きな魅力だ。



2021年度(2020年10月~2021年9月)タイのMICEに関する各プログラムの紹介

「アメージングタイランド健康安全基準(SHA)」プロジェクト

日常生活の回復と観光産業の再開へ向けた取り組み

タイでは、新型コロナウイルス(COVID-19)感染予防のための公衆衛生対策として、厳格な衛生基準と認証制度「アメージングタイランド健康安全基準(SHA)」を設け、旅行者からの信頼を高め、旅の安心感を提供する取り組みを行っている。

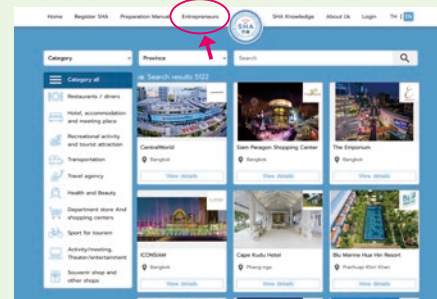
この制度は、飲食店、宿泊施設・コンベンションセンター、観光・娯楽施設・エンターテインメント、交通機関、旅行会社、健康・美容関連サービス、百貨店・ショッピングセンター、スポーツ関連施設、劇場・映画館、土産物店・小売店の各事業者が感染予防ガイドラインを遵守することで、コ

ロナ後に行きたい国としてタイが選ばれるよう、タイ国政府観光庁(TAT)が主導しているもの。

SHA認定を受けるには、検査官の厳格なチェックとTATの審査に合格することが必要で、認定者には、TATから品質認証としてSHAロゴを交付。事業者店頭でSHAロゴ掲示できるほか、SHA公式サイト認定事業者リストに掲載される。7月初旬にはすでに1900以上の事業者が認定を取得している。

公式サイト(英語)

<https://thailandsha.tourismthailand.org/index>



タイMICEリカバリープログラム

IM PEOPLE FOCUSED

タイ国政府コンベンション&エキシビションビューロー(TCEB)では、タイへのMICE需要のリカバリー対策として、「INCENTIVES MEETING PEOPLE FOCUSED」キャンペーンを実施している。

このキャンペーンは、「EASE UP」というプログラムを軸に展開するもので、50万米ドル相当の助成金を用意すると共に、ホテルやDMCなどのパートナーから無料商品やサービスを提供する内容となっている。

具体的な内容としては、タイ国内に2泊以上宿泊する40人以上の団体に対して、

1人あたり最大1500バーツの助成金をTCEBから提供するほか、DMCパートナーからは最大20人のグループに対して、空港とホテル間の送迎サービスをはじめ、市内観光やローカル体験を提供。さらにCSR体験、チームビルディングプログラムのいずれかの提供を行う。

この取り組みにはタイ国内の8つのDMCが参画している。

また、ホテルパートナーからは、最大20室を無償で提供するプログラムを用意。

ただし、無償提供と同室数の有償予約を

INCENTIVES
MEETING
PEOPLE
FOCUSED

EASE UP
a collaborative financial grant

することが条件となる。

ホテルに関してはバンコクをはじめ、プーケットやパタヤ、ホワヒンやチェンマイなど、タイ各地の10都市にある52のホテルが対象だ。

同プログラムの申請は2021年3月31日までとなっており、対象の旅行期間は2021年6月30日までとなっている。助成金については予算がなくなり次第終了となる。

特別感を演出するMICEプログラム

TCEBでは、タイ現地での歓迎ムードを演出する各種プログラムを用意している。例えば、空港到着後のウェルカムサインを持ったスタッフの出迎えや、長い列に並ばずに入国審査に進めるファーストレーンの使用など、到着直後から特別感を演出。

また、空港でバスに乗り込む際には、民族衣装に身を包んだ女性によるウェルカム

ギフトの贈呈、パーティー会場への伝統舞踊団の派遣など、タイらしさを演出しながら、徹底した歓迎ムードで迎えるアレンジが可能だ。



MICEビジネスに関する「MICE衛生ガイドライン」を設定

TCEBでは、タイ保健省や疾病対策センター協力のもと、タイでのMICEビジネスに関する「MICE衛生ガイドライン」を設定している。

このガイドラインは、ビジネス オブ クリエイティブ アンド イベント マネジメ

ント アソシエーション(EMA)、タイ エキシビジョン アソシエーション(TEA)、タイランド インセンティブ アンド コンベンション アソシエーション(TICA)など、タイのMICEビジネスに関連する組織により作成されたもの。ミーティング、インセン

ティブ、コンベンション、展示会など、各参加者の目的に沿って、イベント前、イベント中、イベント後と、各施設やスタッフの衛生管理に関する明確な指針が示されている。

TCEBとは?

タイ国政府コンベンション&エキシビションビューロー(TCEB)は、内閣府の外郭団体で、MICEビジネスの展開とプロモーション事業を担う。コンベンションビューローとしてはアジア最大級の規模を誇る組織だ。TCEBはMICEでの渡航を検討する企業や団体の要望に応えるため、タイ国内の行政各機関やDMC、関連施設やホテルといった複数の民間企業と緊密に連携。満足度の高い渡航をサポートすることで、優れたMICEデスティネーションとしてのタイの認知度向上を図る取り組みを行っている。